
第10回 関西スペイン語教師の集い（第124回関西スペイン語教授法ワークショップ）開催報告

X Encuentro de Profesores de Español en Kansai

- 1) 日時：2019年2月14日（木）10:50 - 12:50
 - 2) 場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1406 教室
- 担当者：横山友里

タスクを重視した指導法を取り入れた日本におけるスペイン語教育（II）
ータスクを自分たちの授業に合わせてみようー

El enfoque por tareas aplicado a la enseñanza del español en Japón (II): Reflexiones sobre su posible implementación en clase

* Fecha y hora: domingo, 14 de febrero de 2019, de 10:50 a 12:50

* Lugar: Universidad Kwansai Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1406

* Encargada: Yuri YOKOYAMA

* El enfoque por tareas aplicado a la enseñanza del español en Japón (II): Reflexiones sobre su posible implementación en clase

ワークショップの流れと内容

当日はまず、タスクを重視した指導法とはどのようなものかを、以下の4点（タスクを重視した指導法の目的、基盤となる第二言語習得理論、タスクの定義、指導法の手順）に従ってワークショップ形式で理解を深めた。次に、実践例として報告者が実際に行ったタスクを重視した指導法の授業の様子の映像（Ponle la cola al burro）を見た。続けて、実際に Ponle la cola al burro を授業で行った場合に、プレタスク、ポストタスクとして何が行えるかを Ellis (2018) の分類に沿って、また授業配布プリント、実際の授業内で産出された発話のスクリーンショットなどを参照しながら、グループで考えた。最後に、自分たちのクラスに合わせて難易度を調整するための要素を確認した。

プレタスク、ポストタスクの提案

当日ワークショップにて出たプレタスク、ポストタスクの提案を以下にまとめる。4グループに分かれて行った。なお、時間の関係で、プレタスクのみしか十分に考えることができ

なかったため、報告書にはプレタスクのみの提案を記載している。

グループ1：同じようなタスクを実際にやっている様子を映像で見せる、語彙を導入する

グループ2：日本国内においてロバに遭遇する機会、尻尾をつける機会はないため、より現実味のあるタスクとして、人間のイラストに服を着せるというタスクに変更し、洋服の語彙などをプレタスクとして導入する。

グループ3：学ばせたい言語形式を最初に決め、その言語形式に沿ってプレタスクを決めていく。具体的には、命令形を導入したいため、動詞や、命令形を例として1つのみプレタスクで学ばせる。

グループ4：ロバに尻尾をつけるというタスクに現実味を帯びさせるため、ディズニーのイーヨーの話のプレタスクとして導入するなどの工夫をする。

議論

1. 上記のプレタスクの提案に伴って当日出た議題、もしくは報告者の補足は以下の通りである。

● グループ1

➤ Ellis (2018) の Modelling the performance of task, Pre-teach the vocabulary に相当するもので、Teacher-centred のプレタスクと言える。

● グループ2

➤ 実際の状況の真正さを重視するという点で、situational authenticity を重視したプレタスク、タスクである。初心者用のタスクを重視した指導法では、他にも、interactional authenticity というタスクを行う最中の学習者の認知過程の真正性を重視する考えもある。

● グループ3

➤ 学習する文法項目を教員がある程度予想して行うタスクを focused-task といい、unfocused-task と区別される。

● グループ4

➤ 松村 (2017) の背景スキーマの喚起を行うプレタスクに相当するものである。

2. その他の議論

タスクを重視した指導法の実践は、柔軟性に富んだものであり、教員次第でどのような変化させることが可能であるという点が話し合われた。例えば、どのような言語産出が出てくるのかを予想したり、どのようにプレタスク、ポストタスクを組み合わせたりするのも、教員次第で柔軟に決定していくことが可能である。それに伴い、経験や想像力が必要となるという意見が出た。

また、文法を重視したい、コミュニケーションを重視したいというような個々のピリ
ーフもプレタスク、タスク、ポストタスクという段階を理解し、実践・工夫することで、
様々に反映することが可能であり今後の実践に期待したいという声があった。

そのほか、実際の学生の会話全てを把握することが困難であり、学生の間違いを把握
できない不安、教員としてできることが限られるのではという懸念については、学生が
実際に行う活動の録音をし、データの書き起こしの活用の提案、また従来の授業におい
ても個々の学生のエラーまで全てを教員が把握しているわけではないこと、そしてそれ
以上に学生の力を信じてタスクを行ってみるというタスクを重視した指導法の可能性
が確認された。また当日配布した Spot the difference の教材やプレタスク、ポストタス
クでのアイデアを自分の授業で実践したいという声も聞かれ、今回のワークショップ
を通して参加者、また日本におけるスペイン語教育に少しでも貢献できたなら幸いであ
る。

参考文献

- Ellis, R. (2018). Reflections on Task-Based Language Teaching. *Multilingual Matters*.
- Ellis, R., & Shintani, N. (2014). Exploring language pedagogy through second language acquisition research. Routledge.
- 白畑・富田ほか (2009) 『改訂版 英語教育用語辞典』大修館書店.
- 松村昌紀 (2012) 『タスクを活用した英語授業のデザイン』大修館書店.
- 松村昌紀 (2017) 「タスク・ベースの発想と言語教育の方法論」1章『タスク・ベースの英語指導—TBLT の理解と実践』松村昌紀 編著, 大修館書店.
- 松村昌紀「コミュニケーション課題の準備と活動の計画における留意点 タスクの性格とタイプ、難易の調整について理解する」, 2018 年度 LET 関西支部春季研究大会ワークショップ.

この発表は、JSPS 科研費 18K12475 の助成を受けたものです。